

健康増進計画(健康はだの21)第4期計画

基本の方向性 Ⅲ 生活習慣病の重症化予防										
取組分野 2 生活習慣病										
評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績※	R4実績	目標値			
特定健康診査受診率の向上	33.8%	34.2%	33.6%	30.6%	31.5%		40%			
特定保健指導終了者割合の増加	18.5%	16.6%	14.2%	17.9%	15.1%		26%			
特定保健指導対象者割合の減少	9.8%	9.7%	9.9%	8.7%	8.9%		8.5%			
※R3年実績は、R4、8/25時点速報値										
重点目標 <生活習慣病の重症化を防ぐ>										
基本施策 ○特定健康診査及び市民健康診査の受診率向上のための取組										
市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)	
		H30	R1	R2	R3	R4				
ア 普及啓発事業										
a) 特定健康診査未受診者への受診勧奨	指 標	電話勧奨者の特定健康診査受診率(%)					・特定健診の「まだら受診者」1,869名に受診勧奨はがきを送付、そのうち電話番号のある対象者675名へ電話勧奨を実施(国保連在宅保健師) ・40～54歳で、特定健診が未受診かつ、内科の通院をしていない3,134名に健康状況不明者へ受診勧奨はがきを送付。 ・県の糖尿病未病改善モデル事業対象98名及び70歳～74歳で過去3年間特定健診未受診かつ通院をしていない健康状況不明者1,571名へ受診勧奨電話を実施。	A	国保連在宅保健師の協力により業務が効率化したため、次年度も依頼予定。	国保年金課
目的:特定健康診査受診率を向上する。 内容:健診対象者への個別通知及び未受診者に対する受診勧奨の実施(特定健康診査)	目標値	8	8	9	9	10				
	実績値	2.5	3.8	12.6	28.5					
b) ショッピングモール等での普及啓発	指 標	普及啓発の人数と回数(人/回)					・イベントは、イオンショッピングモール(74人)のみ普及啓発活動を実施。 ・健康サポート講座(11回、137人)、グッバイ内臓脂肪(全8回、48人)、血管イキイキ食生活のすすめ(5回、44人)にて、受診促進の声掛けや健康相談等を実施した。 ・「薬の講演会」(1回、19人)、「シルバー骨密度測定会」(1回、40人)、「低栄養予防講座」(1回、11人)、「未病センターはだの健康相談会」(6回、26人)や「健康バス」(5回、166人)、「糖尿病予防講座」(1回、20人)等の講座に出向き、直接特定健診の受診勧奨が出来た。	B	特定健康診査の周知徹底に合わせて、健診の必要性まで伝えるため、受診のメリット、未受診のリスク等を周知する方法を検討していく。また、健診のみではなく、保健指導の利用にもつなげられるよう工夫していく。	国保年金課
目的:特定健康診査受診率を向上する。 内容:イベント、健康講座・相談会等での健診受診の必要性について普及啓発を実施。ポスター、パンフレットの配布や個別面接	目標値	2,100人 28回	2,200 28回	2,300 29回	2,400 29回	2,500 30回				
	実績値	2,469人 29回	2,140人 27回	556人 13回	585人 40回					
イ 特定保健指導の実施	指 標	特定保健指導対象者のうち初回面接実施率(%)					特定指導対象者人数/初回面接実施者: 879人/160人 (令和2年度:867人/130人) ・特定保健指導は、個別と集団で実施。 ・感染対策と利便性を考慮して、新たに、集団サポートでは「オンライン講義」を計画したが、申込はなかった(4回:0人)。 ・新たに、西公民館・サンライフ鶴巻を会場に加えた。 ・特定保健指導の案内チラシ裏面に、健康講座の案内を掲載したことで、講座出席後に、特定保健指導に繋がった(5人)。 ・各健康サポート講座の参加者のうち、特定保健指導対象に対し、承諾を得て講座同日に初回面接を行った(7人)。 ・集団サポートでは国保連の支援事業を利用し「内臓脂肪測定」をインセンティブに設定し5回実施。	B	・結果発送数が少ない時期(8.9月)よりも多い月(6月)の開催数を増やし、効率的な集客へ繋げる。 ・新たに、南・東・南が丘公民館も追加し、利便性の向上により、初回面接参加者の増加を狙う。 ・他の健康講座の受講時に、同意を得て、その場で特定保健指導を実施する方法は、次年度以降も継続。 ・オンライン初回面接は、個別サポートの選択肢として継続する。 ・集団サポートでは、国保連の協力による「内臓脂肪測定」を継続し、新たに「糖化度測定」と「肌年齢測定」をインセンティブに設定して実施する。 ・新たに、エクササイズと保健指導を同時に設定するなど、運営の工夫して魅力ある「特定保健指導」を実施していく。	国保年金課
目的:生活習慣病、および予備群の減少を図る。 内容:特定保健指導対象者へ、保健師・管理栄養士がメタボリックシンドロームに着目して、3か月以上の生活習慣改善支援の実施	目標値	20	21	22	23	24				
	実績値	14.9	15.8	15.0	18.2					
ウ 健康ポイントプログラムの実施	指 標	アンケートで「健康ポイントラリー参加後、よい変化があった」割合(%)					・国民健康保険の納税通知書と併せて、6月に全世帯へ応募用紙を配付。 ・参加者は、自ら目標を立て実践している人や、健診を受診した人が多く見られた。 ・前年度に引き続き、自宅で取り組める運動・食事のリーフレットの実践もポイントの対象とした。 ・特定保健指導のちらし裏面にポイントラリーの案内を掲載し、各講座時にも積極的に周知した結果、応募件数が倍増した。 応募者:274件(R2:130件)	A	楽しく健康づくりに取り組める機会となるよう、引き続き周知徹底や関係各課との連携を図っていく。	国保年金課
目的:特定健診の受診率の向上及び健康づくりの取り組みを実践する人を増やす。 内容:各健(検)診や健康教室の参加、健康づくりの取組をした者に対してポイントを付与(平成30年度から事業開始)	目標値	50	50	50	50	50				
	実績値	85.4	73.5	79.2	86.1					
エ 巡回型健康測定事業(健康バス事業)	指 標	健康測定会に参加者数(人)					東海大学の協力により、感染対策を講じて実施し、公民館5か所で開催ができた。参加者数は限られるが、30歳代から70歳代まで幅広い年齢層が参加し、「自分の健康状態がよくわかった」「生活習慣を見直せた」等、健康への意識付けとなった。開催回数:5回、149人(R2年度:1回、25人)	A	公民等で実施することで、近隣の市民に呼びかけることができ、働き世代がアクセスしやすい環境が整う。今後も、近隣の小学校等を通じて周知して開催するなど、引き続き、若い世代の参加者を増やし、生活習慣を見直すきっかけづくりへつなげる。	健康づくり課
目的:特定健診の受診率の向上及び健康への意識を高め、正しい生活習慣の動機づけを行う。 内容:東海大学健康学部との協働により、公民館等で健康測定(骨密度や体組成測定)を実施	目標値	150	150	150	150	150				
	実績値	170	187	25	149					

基本施策		○生活習慣病の重症化予防のための取組					実施状況及び成果等(R3)	担当課 評価	課題と今後の対策(方向性)		
市の主な取組(事業名)		年度									
内容		目標値・実績値等	H30	R1	R2	R3				R4	
ア 生活習慣病重症化予防事業											
a) HbA1c6.5%以上に対する受診勧奨		指 標	受診者数の割合(%)					令和3年度の電話かけ対象者88人のうち、49人は、既に医療機関に受診済み、残り12人が受診につながった。今年度より、電話が繋がらない場合等は文書による受診勧奨と糖尿病重症化予防のための資料を併せて送付している。また、75歳から79歳の後期ドック及び後期高齢者健診の対象者に対しても健康づくり課と協力して電話でのフォローアップを実施している。	A	糖尿病重症化予防のため、引き続き電話によるフォローアップと電話不通の場合の文書及び資料送付を行う。その後のフォローアップを課題とする。	国保年金課
目的:医療機関に受診できる。 内容:レセプト等より、特定健康診査受診者でHbA1c 6.5%以上の未受診者に対する電話受診勧奨		目標値	26	27	28	29	30				
		実績値	27.3	33.3	32.4	30.8					
b) かかりつけ医と連携した生活習慣改善プログラム		指 標	生活習慣が改善したと申告した人の割合(%) (食事・運動)					・レセプト及び特定健診結果から糖尿病性腎症の2期・3期の者を対象に(97名)、保健指導案内を送付し、7名の申込があった。かかりつけ医が記入した「保健指導確認証明書」をもとに、専門職による保健指導を半年間、実施した。 (R2年度:9名) ・新たに、後期高齢者に対象を拡大して、糖尿病性腎症重症化予防事業を実施した。	A	対象者全員から、生活習慣が改善したとの結果となった。今後も同様の取り組みを行い、糖尿病重症化予防を進めていく。	国保年金課
目的:生活習慣が改善する人を増やす。 内容:かかりつけ医で治療を継続しながら生活習慣改善を目指すプログラムの実施		目標値	66	67	68	69	70				
		実績値	85	78.6	55.5	100					
イ 生活習慣病予防事業(保健事業)											
a) メタボリックシンドロームの改善、予防のための講座(再掲)		指 標	講座参加者の中で、特定保健指導対象者の参加率(%)					適度な食事のとり方、生活習慣病予防のための正しい知識が学べ、日常生活でも取り入れやすい内容で実施。 実施回数:5回 ・参加者41(延45人)のうち、10人が特定保健指導対象者(24.4%)。(参加者10人は、特定保健指導対象者全体879人のうち、1.0%の割合で、前年度と同程度だった。) ・参加者が、昨年比で減少した要因は、本講座が基礎的な内容で、改善を目指す意欲的な人は病態編へ流れたため。 ・本講座をきっかけに特定保健指導に7人が参加したことは大きな成果と言える。 ・調理実習をしないことから、調理に関する啓発はレシピと調理の工夫、管理栄養士のコメントを記載したリーフレットを発行し、情報提供した。 作成回数:6回(各100枚)	C	講座を通して適度な食事のとり方等を学び、メタボリックシンドロームの予防・改善につなげていく。本講座は、特定健康診査受診者を対象にしているが、特定保健指導が必要な人の参加の割合を引き上げていきたい。令和4年度は、年6回開催予定。	健康づくり課 国保年金課
目的:食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶことができる。 内容:メタボリックシンドロームの改善と予防のための食事を学ぶ講座の開催 (事業名)血管イキイキ食生活におすすめ(メタボ編) (対象)特定健康診査受診者		目標値	40	45	50	55	60				
		実績値	34.3	56.1	42.9	24.4					
b) 病態別の料理講座(再掲)		指 標	病態別の料理講座の参加者数(人)					病態別は糖尿病、高血圧症、脂質異常症としてテーマを絞って実施。今年度は、脂質異常症については、LDLと中性脂肪で分けて実施したことで、より参加者に合った情報提供を実施した。病態別の講話や個人ワークで自分自身を見つめ、生活習慣病の重症化予防につながる内容とした。 ・密を避けるため定員を12名とした。 ・調理実習が実施できないため、料理レシピ集の配布や、料理動画の放映した。 実施回数6回延63人(R2年度:3回37人)	A	引き続き、講座内容としては基本的な内容を中心にしながら、さらに深く知りたい人は個別相談関わるなど、生活習慣病予防につなげていく。他の講座でのフォローなども行う。令和4年度は、年6回開催予定。	健康づくり課 国保年金課
目的:生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容:病態別(糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編)料理講座の開催 (事業名)血管イキイキ食生活におすすめ(病態別) (対象)一般		目標値	60	60	60	60	60				
		実績値	51	39	37	63					
c) HbA1c 5.6%以上への生活習慣改善講座		指 標	HbA1c5.6%以上が生活習慣改善講座の参加率(%)					・対象者(HbA1c5.6%以上):4,850人 そのうち、講座参加者:105人(2.2%) (R2:対象者4,899人、参加者43人) ・全講座における参加人数(実)157人 そのうち、対象者105人(66.9%) (R2:全講座受講(実)139人のうち対象者43人で30.9%) ・食事と運動に関するリーフレットを発行し、特定保健指導内で活用した他、HP掲載及び窓口にて配架(作成回数:6回) ・HbA1c6.5%以上の未受診者へは糖尿病重症化予防の電話支援を実施。 [各講座のHbA1c5.6%以上の参加状況] 健サポ(実):79人中、52人 血管イキイキメタボ編(実)34人中、22人 脱メタボ(実)30人中、16人 血管イキイキ病態別(実)45人中、30人 糖尿病予防講座は、HbA1c6.1~7.0未満に対象を絞って実施(実)25人	C	・講座については、周知方法や内容を工夫し、HbA1c5.6%以上の参加者を継続的に増やしていく。 ・今年度から開始した「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」事業に合わせて、働き世代からの糖尿病の重症化予防を重点に、該当者を支援できる体制について検討していく。	健康づくり課 国保年金課
目的:自分自身の健康状態を知り、生活習慣を改善する人を増やしていく。 内容:HbA1c5.6%以上の者への生活習慣改善講座の開催 (血管イキイキメタボ編、健康サポート講座、脱メタボ(グッバイ内臓脂肪)、血管イキイキ病態別編、糖尿病予防講座)		目標値	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5				
		実績値	5.7	4.8	0.9	2.2					
d) 日常生活動作を増やすための講座		指 標	アンケートで「実践する」割合(%) (実施済除く)					実施回数:19回(健康サポート11/脱メタボ8) 参加者:185人(健康サポート137/脱メタボ48) (令和2年度:11回、120人) 【健康サポート講座】 ・実施回数11回、参加者数137人(延)、79人(実)。「実践する」と回答121人(88.3%)。 ・申込者が多かった回は、感染予防から2回に分けて追加開催で対応。 ・緊急事態宣言中で、8.9月を中止した代替で「始める!広がる!はだの健康スタイル特別号」を参加予定者に郵送。 【脱メタボ健康講座】 ・実施回数8回。参加者数48人(延)、30人(実)。「実践する」と回答47人(97.9%) ・「筋力アップと活動量増やす」の他、「食生活と運動」、「有酸素運動の実技」の3テーマで、新たな講師も加えて実施した。 ・食事と運動に関するリーフレットを発行し、講座内での活用した他、HP掲載及び窓口にて配架し、広く情報提供。(作成回数:7回)	A	【健康サポート講座】 希望者が多く参加できるように、広い会場を選択し募集人数を25名程度に増やす。自分に合った日時や講座を選択できるように、3種類の案内を掲載する。また、「抽選」→「先着順」と表示し、講座参加を促す。 【脱メタボ健康講座(グッバイ内臓脂肪)】 からだチェック+食生活編、身体活動編、エクササイズ編の3種類のコースを用意し、年間9回実施予定。日常生活動作を増やし、増やした日常生活動作を継続できるように、3コースのセット受講を推奨していく。	健康づくり課 国保年金課
目的:日常生活の動作が今より増える人を増やす。 内容:日常生活動作を増やすための講座の開催 特定健康診査受診者対象(健康サポート講座:4種類) 特定保健指導対象者(脱メタボ健康講座)		目標値	80	82	84	86	88				
		実績値	80.9	91.7	82.5	90.8					